



# 三木高大 自治会新聞

平成 29 年 12 月号 (No.139)

発行 三木市高齢者大学学生自治会

発行責任者 自治会会長 小林 敏之

編集者 自治会新聞編集委員会

発行日 平成 29 年 12 月 5 日

<http://koureisyadaigaku.cccp.j>

## 今年を振り返って

三木市高齢者大学学長  
岩波 孝昭



「終活」という言葉を聞いて久しいのですが、私自身も 76 歳を迎えて特に意識をしないながらも「終わりの活動」に入っているようです。小学校の同窓会も一番長く続いていたのですが、皆と話し合って今年の春で最後としました。身の回りでは、庭木の伐採も始めました。柿の木、もちの木、柃などです。近所では空き家が多くなってきておりその家の荒れるがままに放置されている樹木を見るにつけ、他山の石にしたいと思ったからです。

「エンディングノート」も少しずつ纏めているところです。財産の処分についての項目が 1 行程度で済んでいるところが残念（笑い）。しかし、その活動が決して寂しく悲しいものではなく、かえって清々しく感じられるのは、「今が幸せ」と感じているからなのでしょう。そうして「後顧の憂い」が無くなれば新しい挑戦や目標が生まれて来るのではないかと考えています。それが他人からみてどんな小さなことであっても成し遂げられた時の感動を味わうことが出来れば、こんな幸せなことではないのでしょうか。

今は亡き母親の 98 歳までの元気な生涯を目標にするのが、高望みでないように、一年一年を積み重ねてゆきたいと改めて思う今年でした。

## 11 月の教養講座から

人権講座「むすびあい 心がかよう 地域の輪  
～いつも心に逢・ラブ・遊～」

講師:NPO 法人生涯学習サポート兵庫 交遊亭 楽笑 様

本日の講師は交遊亭楽笑様。大阪府高槻市市役所で長年福祉の仕事に従事され、退職されてからも落語家ならぬ楽語家としてそれまでの経験を活かされ、人権尊重・福祉関連の活動を続けられています。普段、難しい顔をしながら話す事を「簡単に」



「分かり易く」おまけに「面白く、楽しく」話して頂きました。

講話のころは「すべての人がつながりあい、ひとりひとりが認めあえる社会」を目指すこと。私達はお互いに認めあい、助けあって明るい未来に歩いて行く事が大切です。地球は一つ(ワン アース オール仲間)、みんながニコニコ暮らすには、アンテナを高く張って、世の中に起きている色々な事に触れ、みえてきた事は他人事と考えずいつも自分事と思う事が大切です。まずは身近で困ってる人には優しい声かけする事から始めてみましょう。周りの人達とのつながりが出来、助けあいの輪が広がって行きます。やる事は一杯あります。色々な出来事を他人事と考えず自分事に置き換えて行動する。大事な事を教えて頂きました。

私達も「未来へつなげよう、違い(比べる事とは違う)を認めあう心を持ち、みんなが積極的に声をかけあう」を実践していきましょう。福祉・人権尊重は「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにですね。

4年4班 勝丸 桂二郎

## 秋季研修旅行報告

## 鯛も踊った！秋晴れの旅

春は日帰り、秋は一泊旅行として、先達が長く思い出を綴って来られた行事が、今年から秋季研修旅行として統合され、「鯛の活造り」が人気で、淡路方面に決定しました。

11月10日（金）8時前に参加者111名が三木文化会館に集結し、大学事務局と3年女性は1年生に同乗、3年男性は2年生に同乗、そして4年生のバスとで3台を連ね、山陽自動車道から明石海峡大橋をひとまたぎ。晴れ渡った景色を眺望し、鏡のような海面を見つめながら世界一の吊橋に、近隣としての優越感に浸り、学友との雑談にお酒も加わり、心地よいひと時を楽しんだ。

はじめの目的地、淡路人形座に到着。演目は「戎舞」で戎さまがお神酒を飲み、福の神であることを告げながら舞う神事で、太夫が太鼓の伴奏で物語を語り、浄瑠璃に合わせて人形を操る古式豊かな伝統的芸能であった。



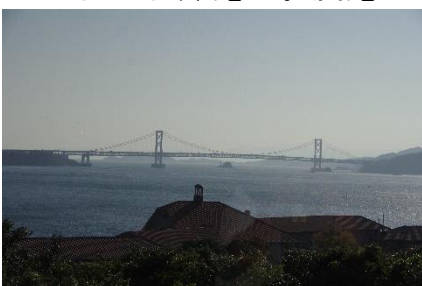
次に、うず潮の大きさとして世界一を誇る鳴門観潮クルーズに乗船。勝海舟が太平洋を横断し、アメリカへ渡った蒸気帆船の勇姿を復元した「咸臨丸」である。鳴門海峡で発生するうず潮を眼下に、複雑な海底起伏を想像し、消えてはまた現れるうず潮の不可思議な情景に自然の偉大さを感じた瞬間であった。

旅のハイライト「うめ丸旅館」に到着。昼食に先立ち岩枝実行委員長より「本日の快晴は私の念力のおかげである」と、小林自治会会長は「皆さんの想いも加わり楽しい懇の場に」とそして、司会者の「ご馳走を前に手短の…」と岩波学長への誘導紹介に「その通りです、宜しくお願いします」と、臨機応変の数秒ご挨拶に大爆笑と大拍手！上原前実行委員長の高らかな歌声乾杯発声により大いに盛り上がり、鯛もピチピチ跳ね踊り舌つつみを打ちながら、雑談にも花が咲き、宴席は瞬く間に笑顔・笑顔の懇親の場へと変貌しました。



昼食会場を後にバスに乗車し、ビンゴゲームを楽しみながら「たこせんべいの里」に到着。店内の販売スペースには多種多様のせんべいがラインアップされ、試食自由で味を確認して、お気に入りを購入できるという商スタンスである。求めやすい単価で楽しく買い物ができ、無料コーヒーや休憩コーナーもあり、気軽に立寄れるスポットとして人気を集めている。

いよいよ帰路へ。淡路ハイウェイオアシスで小休憩をとり、ビンゴゲームの続きを楽しみながら、3台のバスは快適に走り続け、朝の集結場所に笑顔のまま無事到着した。



参加者全員が、高大生活の楽しさを共有できた有意義な一日でした。皆さんに乾杯！

秋季研修旅行実行担当役員 3年4班 飛田 二三哉



## 学年通信（3年生）

3学年は「楽しく学んで和気藹藹」の下、同期だけの研修会や、各種学校行事に積極的に参加しています。今回は3学年春の研修会での思い出を報告いたします。行先は砥峰高原、季節は向夏6月15日、まずは下見、約1か月位前に2班の仲川班長と他1名で行きました。あいにくの雨天でしたが、あまり強くないので出かけました。

昼食場所が肝心、あちらこちらを検討しましたが、「ホテル・モンテ・ローザ」フランス料理に決めました。

砥峰高原では当日の案内をして頂くため、「とのみね自然交流館」の方と話を詰めました。その他施設見学は雨天でもあり一通りを見て、早々に帰路につきました。

当日は皆様の日頃の行いが良いせいか、梅雨の晴れ間の青空。最初に着いたのは「砥峰高原」現地の自然ガイドの案内で、新緑のススキが原へ高原全体が目にしみいる緑色、頂上から麓まで約2時間のウォーキングは、そよ風も吹き気持ちのいい汗を流すことが出来ました。昼食はフランス料理のフルコース。レストランは我々の貸し切り状態で、メニューは参加者に大変満足をしてもらいました。

最後は「関西電力大河内発電所」マイクロバスに乗り山腹のトンネルの中にある発電機を見学、何時でも稼働状態であれば、あの「黒四ダム」より大きな発電が可能であると聞かされ一同がビックリ仰天。帰りのバスでダムの全景を見に行き堤防から美しい光景が眺められたのは大変印象に残りました。

3年3班 廣田 重宣



## ひろば

### 「郷土史文庫」の開設について

本年9月、まなびの郷みずほの図書コーナーに、「郷土史文庫」を開設しましたのでご紹介します。

この郷土史文庫は、高齢者大学専門講座の郷土史学科で、学科開設から現在までの間に学んだ受講生から徴収した年会費等の余剰金を基金として、郷土史に関する図書を購入したもので、「郷土史」学科の受講生のみならず、ほかの現役学生、大学院生及び一般の方に広く公開することにより、歴史ある三木のまちの理解と郷土愛を深める目的で設置したものです。

収納した図書は、余剰金の範囲内で入手可能なものとして、当学科でも講師をされていた故福本錦嶺先生の著書を中心としたものになっており、貸出簿に記名することで、2週間を目途にどなたでも貸出可能です。

運営管理は郷土史学科の学科取りまとめ責任者（末尾に記載）があたります。開設したばかりで、まだまだ小規模な文庫ですが、徐々に充実を図っていく所存です。皆様のご家庭などで、寄贈頂ける図書がございましたら、下記あてご一報下さるよう宜しくお願い致します。

今年度の学科取りまとめ責任者：3年3班 西畑 種嗣（☎85-3510）

4年5班 渡邊 昶彦



# ク ラ ブ 紹 介

## 短歌クラブ

金色の ちひさき鳥の かたちして  
いてう散るなり 夕日の岡に (与謝野 晶子)

意味は金色の小さい鳥のようなイチョウの葉が  
夕日があたっている丘でひらひらと散る様子です。



この句を見ると、一見むずかしそうですが短歌は難しいものではありません、森羅万象の出来事を31文字で表現をする、奥深い言葉遊びであります。

私は短歌クラブに入部して短歌を作る「作歌」という作業をするまで3ヶ月を要しました、その間は先輩ら短歌を眺めているだけでした。しかしその期間の苦労が芽を吹き、やっと短歌らしくなって来ました。これからは大学祭での展示も大丈夫だと言われてクラブ員一同から期待を受けているところです。

講師は兼貞靖行先生です、優しく丁寧なご指導により、私は短歌をよく理解する事が出来ました。吟行会や自然観察も短歌の参考になると実践して載っています。

登校日の月1回が活動日、見学者にはお茶とお菓子のサービスもしています。どうぞ、お気軽に研修室4の部屋へお越し下さい。

クラブ員一同心よりお待ちしております。

短歌クラブ部長 3年3班 廣田 重宣

## 歌謡アカシアクラブ



歌謡アカシアクラブのおけいこ日は月3回。その内訳は、1回は原則第三金曜日に高齢者大学第3研修室(2階)で藤島先生を講師としてレッスン。あと2回はカラオケボックス(バンバン)で自主練習しています。

バンバンでは課題曲や自由曲をみんなと一緒にになって、ワイワイガヤガヤと楽しく歌います。自分のレパートリーも増え、おしゃべりも弾みます。

ボランティア活動では緑が丘デイサービスセンター(ひまわり)や自由が丘デイサービスセンター等の入所者の皆さんと、一緒に歌を唄ったりマジックや女性クラブ員による銭太鼓を披露したりして、入所者の皆さんに喜んでいただき共に楽しんでいます。

歌やカラオケに興味ある方、またはカラオケには興味はあるが、ど演歌はちょっと、と思われる方も是非一度練習を見に来てください。皆さんの入部をお待ちしております。

新入部員大歓迎。

歌謡アカシアクラブ部長 4年2班 藤村 末雄